

### 祈り―理想と現実を結ぶもの

(コロサイ四・三〜六ほか)

疲れた目で漫然とテレビを見ていた日曜の夜、画面いっぱいに現れた握り寿司に目覚めさせられた。タイトルは「ふたりの神様・最後の約束」ミシユランの三ツ星料理人にして寿司の神様の名をほしいままにする小野次郎さんと中学卒業から五十五年、天ぶら一筋で生きてきた天ぶらの神様こと早乙女哲哉さんが双方の店を行き来するドキュメンタリーであった。所詮食べ物、消えモノではないかなどということは到底できない。特に齡九十を超え、日中の仕事を禁じられた小野さんがテレビの前で「退屈だ、退屈だ」とつぶやく場面には恐れ入った。彼は神などではない。只管に理想を追求する職人であり、求道者なのだ。

閑話休題。ペテロは主を愛した弟子、ヨハネは主に愛された弟子とよく呼ばれるが、使徒パウロはと言えば主を運んだ男と形容するのがふさわしい。彼はまたよく神学者とも呼ばれる。確かに一理あるが、彼は脳内の人ではなかった。むしろ彼の神学は現実の中で深まったものであった。今朝は彼の語った理想と生きた現実、そしてそれをつなぎ、結ぶ糸としての祈りについて理解を深めたい。

### 一、理想―いつも優しい言葉を

使徒パウロは稀代のコミュニケーションターであった。行くところ行くところで福音を語り教会を形成していくのだ。そも高いコミュニケーションスキルなくしてはやっていけない仕事である。彼はまたコロサイ教会に対してもそのようなスキルを要求した。四・四において外部の人に対して賢明にふるまうことを求めているのがそれである。キリスト者はキリストの証人として、教会の外側にいる人々に対して思慮深く振舞わなければならない。「自分は救われている、君とは違うんだよ」的な尊大さや優越感、また「あなた方は世俗の垢にまみれた俗物だ」といった差別的な態度をとっては、どうして福音が伝わるだろう。そうではなく、クリスチャンは皆よいコミュニケーションにより知恵深く、言葉を選びながら常に福音宣教のチャンスを探し、また生かしていくことをパウロは求めたのだ。更に六節には具体的な語る言葉の吟味について「親切で塩味のきいたもの」という興味深い表現が記されている。日本にも「塩梅（あんばい）」なる言葉があるように料理において塩加減は決定的である。それを適正にするには「いいかげん」でははたまた「良い加減」でやるということが何よりも大切なのだ。

### 二、現実―罵声と怒号

このように少しでも有効に福音を伝えようと腐心し、信徒にもそれを要求したパウロではあったが、彼がその人生のすべての時にそれを実現できていたかと言えば答えは当然に「ノー」である。コロサイ書の執筆から数年前に書かれたガラテヤ書を見ればそれは明らかだ。自分の教えたと正統的な福音からあつという間に離れていくガラテヤ教会のクリスチャンたちの体たらくに驚きあきれ(一・六)、イエスも禁じていた「馬鹿者」呼ばわりをし(三・一)、挙句の果てにはそのまま翻訳するのもはばかられるような、現代であれば放送コードに引っかかるような露骨なブラックユーモア (G.D.M.) まで登場させる始末(五・一二)。パウロは人には「いつも塩で味つけられた優しい言葉を用い、福音伝達のために常に自制したコミュニケーションをせよ」と命じつつも自分では必ずしもそれが十分にできていなかったという結論しか出せないのだ。彼はロールモデルとして必ずしも百パーセントの存在ではなかった。聖霊に満たされ力強くみ言葉を語る一方、激しい牧会の苦闘の中、驚きあきれ、罵声を浴びせ、時には煩悶し涙を流すという極めてリアリティのある人間臭い男であったことがわかるのである。畢竟彼は凡夫、普通の人間だった。

\* \* \*

このように使徒パウロは理想と現実のはざままで生きていた主の弟子であったが、そのことによって抑うつ的なったり、過度な自己嫌悪で外界との連絡を遮断したりということはなかったようだ。ではどうしてこのような厳しいギャップを耐えることができたのだろうか。そのカギは「祈り」にある。まずコロサイ四・四ではパウロ自身が良いコミュニケーションターになれるよう読者に祈りをリクエストしている。またパウロは殆どの手紙を祈りで始めているし、更にはローマ八・二六に示されるように祈る言葉が見つからず、何をどう祈るかわからない時はうめきつつ(多くの学者はこれを異言だと考える)祈っていた。クリスチャンとして生きるといふことはある意味理想と現実の狭間に身を置くことであるが、そのギャップを超えキリスト者として証しを立てるには「祈る」しかないのだ。祈りは呼吸である。祈るとき、私たちの霊は神につながられ、新鮮な神の息吹を受け取ることができる。またその力が働くとき私たちの心と行いは聖書の示す理想に向かって進むことができる。友よ、祈ろう。祈りこそ理想と現実を結び合わせる糸であり、世に神の力を表す最強の武器なのだから。アーメン。